

サム・アルトマンが描く2028年の未来：超知能の到来とインド戦略の全貌

2028年の「超知能 (ASI)」到来と統治

2028年末までに「超知能」の初期版が誕生

世界の知的処理能力の大半がデータセンター内に収まるようになると予測しています。



CEOや科学者を凌駕する知能の実現

あらゆる知的領域で、人間界のトップ専門家を超越する精度と速度で成果を出します。



「IAEA型」国際監視機関の設立を提唱

AIの一極集中による全体主義を防ぐため、国際的な規制と民主化が不可欠です。



「OpenAI for India」：インフラと市場の拡大

Tata Groupとの提携による巨大データセンター



100MW



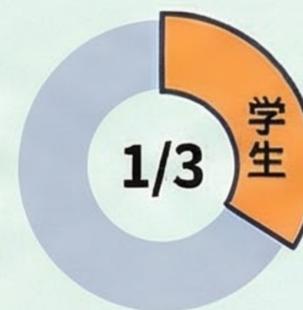
1GW



初期100MWから将来的に1GWまで拡張可能なAIインフラを構築します。

世界最大級のエンタープライズAI導入

Tata Groupの数十万人の従業員へChatGPT Enterpriseを一斉展開します。



インド国内で週1億人以上がChatGPTを利用

利用者の3分の1以上が学生であり、コーディング支援市場として急成長中です。

専門家の視点：アルトマン氏の予測に対する反応

サム・アルトマン (OpenAI)

2028年までにASI到達。AIが雇用を破壊するが、新たな価値を生む。

スチュアート・ラッセル (教授)

「警告灯が赤く点滅」。民間によるAI開発は人類への「ロシアンルーレット」。

ブレント・スモリンスキー (IBM)

「完全に誇張」。AIは人間のような効率的な学習能力を持っていない。